れんげの雲

酒 泉 彰 作詞 加羅古呂庵 一泉 作曲

れんげの雲

拙作「花咲く季節に」を聴いて、友人の酒泉 彰氏が歌詞を寄せてくださいました。れんげが花咲く田園の情景が浮かぶ美しい詩です。

春のあしたに野をゆけば 紫のれんげの雲が棚引きて 里山のせせらぎに陽は光り れんげ舞う 天つ風にゆらゆらと 海の様に波打ちて

れんげ田は匂いかぐわし 花ぞ嬉しき 白くれないの梅の花 彩り添えし 桜の花あでやかに 織りなして錦の様 ふるさとの春は麗しき

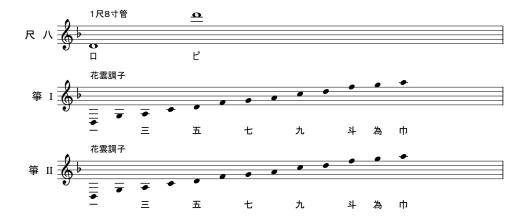
陽の光燦燦と

見渡せば れんげの雲棚引けり

©2021 酒泉 彰

編成は、尺八と箏×2に歌をつけています。箏を弾きながら歌ってもいいですし、大人数で演奏する場合は、別バートとしてコーラス風にしてもいいでしょう。曲の構成は、古曲風に「箭骸」「手事」「後篏」にしていますが、調弦は「花雲調子」で、全体に明るい雰囲気にしてみました。「手事」部分は、箏Iと箏Ⅱが絡み合い、それに尺八も加わります。テンポが速めのほうがおもしろく聞こえると思いますが、技量に応じた速さにしていただいてもかまいません。

梅の花は少し前に散りましたが、今は桜が満開です。近くの田んぼでは、れん げ草が一斉に咲き、風に揺れています。春が盛りを迎えようとしています。



運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。

れんげの雲 Renge no Kumo